

挑む!

野球する子のけが防止に取り組む
こう
幸 智之さん(39)

故障しない環境 小中学生から



地元の京都府宇治市で開いた整骨院。野球で肩やひじを痛めて通院する多くの小中学生は「野球ひじ」に悩む。主な原因は、負担の大きいフォームで練習を重ねること。「けがを治しただけでは、ハッピーになれない。野球で苦しむ子どもを減らしたい」。そう思ったなら、結論はシンプルだった。「故障しない方法を教えればいい」

4月、整骨院に室内トレーニング設備を併設した「CoreAthlete」を立ち上げた。マンツーマンで投

7歳から野球を始め、京都・大谷高では主将。現役引退後に柔道整復師の資格を取得。プロ野球楽天の藤田一也のパーソナルトレーナーも務めている。

球フォームを教えつつ、異状があればすぐに治療できる環境ができた。

25歳までプロ野球を目指していた。

京都学園大時代に主砲として全日本大学野球選手権に出場し、卒業後は社会人野球や海外リーグでプレーした。夢に区切りをつけた後はスポーツトレーナーに転身。高校球児やプロ選手を支えてきた。野球愛は人一倍。「入り口」である子どもたちを守ろうと思いが傾くのは自然な流れだった。

約1時間の野球教室。まっすぐな目で子どもの上達を見つめ、とびきりの笑顔で褒める。照れ笑いの生徒は楽しそうに野球に打ち込む。そんな循環を目指して、隣の城陽市に打撃ケージもつくった。「子どもたちのために何ができるか。いままも模索中です」

文・写真 小俣勇貴

◆次回は6月9日に掲載予定です。

記者から

決して広くはない野球教室。でも、野球離れを食い止めようとする情熱が詰まった空間だった。